



2019年7月29日

各 位

会社名 太洋工業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 細江美則  
 (JASDAQ・コード: 6663)

問合せ先  
 役職・氏名 経営企画部長 園部直孝  
 電 話 073-431-6311

## 2019年12月期 第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2019年1月30日付当社「平成30年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において開示した2019年12月期(2018年12月21日～2019年12月20日)の業績予想を下記のとおり修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

## 記

## 1. 連結業績予想数値の修正

## (1) 第2四半期累計期間(2018年12月21日～2019年6月20日)

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純損益	1株当たり 四半期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,117	△57	△59	△62	△10.62
今回修正予想(B)	1,937	△65	△49	△4	△0.71
増減額(B-A)	△179	△8	9	58	—
増減率(%)	△8.5	—	—	—	—
(参考)前期第2四半期実績 (2018年12月期第2四半期)	2,133	22	30	14	2.55

## (2) 通期(2018年12月21日～2019年12月20日)

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 当期純損益	1株当たり 当期純損益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,778	80	75	43	7.34
今回修正予想(B)	4,233	2	14	33	5.72
増減額(B-A)	△544	△77	△60	△9	—
増減率(%)	△11.4	△97.2	△80.8	△22.1	—
(参考)前期実績 (2018年12月期)	4,582	122	130	69	11.82

## 2. 修正の理由

第2四半期累計期間の連結業績予想数値については、電子基板事業においてFPC試作及び量産案件の受注減、鏡面研磨機事業において大型機の検収の遅れ並びに産機システム事業において産業用ロボットのシステムインテグレーションサービスの案件が想定どおり進捗しなかった等の影響から、売上高は当初予想を下回る見込みであります。損益については、売上高が当初予想を下回ったことに伴う売上総利益の減少等の影響から、営業損益は当初予想より悪化、受取保険金等を営業外収益に、固定資産売却益を特別利益にそれぞれ計上したことから、経常損益及び親会社株主に帰属する四半期純損益は損失が縮小する見込みであります。

通期の連結業績予想数値については、人手不足を背景にした製造現場における自動化・省力化ニーズは高いものの、企業の設備投資に対する慎重姿勢から先行きは厳しい状況を想定しており、テストシステム事業及び産機システム事業においては、厳しい受注環境の継続を想定し、電子基板事業においては、高難度製品及び量産受注等の計画を見直したことから、売上高は当初予想を下回る見込みであります。損益については、引き続き原価低減や生産性向上など徹底したコストの最小化を図ることで、グループをあげて利益の確保を目指すものの、上述の売上高計画の見直しに伴う売上総利益の減少等の影響により、営業損益、経常損益及び親会社株主に帰属する当期純損益は当初予想を下回る見込みであります。

## 3. 2019年12月期配当予想

第2四半期末配当金及び期末配当金については、2019年1月30日付当社「平成30年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」からの変更はありません。

※本業績予想等については、現時点で入手可能な情報及び合理的と考える一定の前提に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等の様々な要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

以 上